

建設企業常任委員会行政視察概要

平成30年7月26日（木）

於 周南市議会 会議室

12:55～14:20

1 調査概要・説明……………周南市道路課橋りょう担当係長

周南市道路課橋りょう担当主査

「橋守隊の取り組みについて」

橋守隊は、産・官・学・民が協働で、市内の身近な橋梁の清掃や簡易点検を実施することによる延命化活動を主な取り組みとしており、道路施設の重要性や現状を広報しながら、日常生活の延長上で実施できるメンテナンスを体験型ボランティア活動として住民に提供している。

周南市のインフラ施設の課題として、広域に分散した施設の安全性確保、施設の維持管理に係る人、金、技術力不足等があげられ、そういった課題に対応するため橋守隊が発足した。

市民に幅広く活動してもらうため、子どもから大人まで、どこでも、誰でも、簡単に取り組める活動を「体験型アクティビティ」として広報し、身近なインフラの重要性や現状と、活動の意義を共有している。そのため親子連れの参加も多い。橋守隊の成果としては、活動により発見された損傷を補修することでメンテナンスサイクルを効率的にまわす事例もあり、施設の延命化は確実になされている。参加者アンケートからは、維持管理の重要性が伝わっていることを確認でき、今後の事業への理解や支援が期待できる。また、土木事業としてだけでなく、子育て支援の一環や、高齢者の活躍にもつながっており、地域活性化やシティプロモーションなどの幅広い分野に良い影響を及ぼしている。



2 主な質疑応答

問 橋守隊と土木関係部署との連携はあるか。

答 定期的な会議等は特にはないが、有志で橋守隊に参加している土木関係部署の職員はいる。また、橋守隊は工事等は行わず、簡単な清掃や通報をするということに住み分けができています。

問 活動の際には、どのような人が何人くらい集まるのか。

答 これまで参加された人で、アンケートに「また参加したい」と回答した約200名にメールを送信し、リピーターが口コミで新たな参加者を連れてこられる。50人程度が集まることが多い。

問 活動する地元の方へ案内はしているか。

答 地元自治会長等には予め話をしている。橋を見守ってもらうためには、地元の方に参加してもらうべきだが、強制参加となることを望んではいないため、現状の広報は自然な広がりを中心としたものとなっている。

問 予算がない中でどのように活動をされているのか。

答 基本的には助成金を活用している。企業努力で材料等を調達してくれるところもある。市の事業として認知されるため少しでも予算がつくよう望んでいる。

問 地味ではあるが大事なところに光が当たり、それを子ども達に伝えることができる良い事業であると感じた。高専の生徒にはどのように参加案内をしているのか。

答 教授が担当の研究室の生徒に声をかけている。「隊長」として活動する生徒もいる。他の生徒は、イベント開催の度に声をかけている。

以上